

LNG 調達条件の柔軟化・多様化に対する取り組み

Initiatives to Enhance Flexibility and Diversity in LNG Procurement

佐古田 英郎 *・橋本 裕 **・石田 和也 *

Hideo Sakoda Hiroshi Hashimoto Kazuya Ishida

1. はじめに

本稿では、市場環境の変化を見通すと同時に、日本の LNG 買主がどのように調達の柔軟性を確保し、価格競争力のある LNG 調達を実現していくかを考察する。

2. 世界の LNG 市場：取引量と輸出入国の拡大

世界の LNG 市場規模は 10 年毎に 2 倍に拡大しており、2015 年における世界の LNG 取引量は 323.1 Bcm (LNG 換算で約 2 億 4,100 万トン) であった。また、LNG 輸入国・輸出国数も堅調に推移しており、2016 年の輸入国は 36 カ国、輸出国は 19 カ国まで増加した。

3. 近年の LNG 市場における柔軟性・多様性の拡大

伝統的な LNG 取引契約では、投資リスク低減や安定調達のために 20 年以上にわたる長期契約で仕向地条項等の硬直的な契約条件が課されていた。しかし、近年では、より流動性が高く柔軟な対応ができる短期・スポット取引が増え、2015 年の短期・スポット取引量は全体の 28% の約 6,840 万トンとなった。さらに、供給源を特定しないポートフォリオ契約も拡大しており、2015 年には世界の新規契約の契約量のうち 38% を占め主流な契約形態となっている。

4. 米国・豪州の新規プロジェクト稼働による市場への影響

米国・豪州で計画されている新規プロジェクトの稼働に伴い、世界の LNG の供給能力は一層拡大される事が予想される。米国の LNG 最大供給能力は、2016 年の約 900 万トン/年から、計画中のプロジェクトも含め、2020 年には約 7,600 万トン/年まで拡大する。豪州は、2016 年の約 5,000 万トン/年から、計画中のプロジェクトも含め、2020 年には約 9,300 万トン/年まで拡大する。

こうした米国・豪州の新規プロジェクトに対し、日本の主要買主が締結している米国との契約数量は、2016 年時点のゼロから 2020 年には約 970 万トン/年となる。また、豪州

との契約数量は、2016 年の約 2,500 万トン/年から 2020 年には約 3,500 万トン/年となる。

また、新しい LNG 輸送経路も開発されており、2016 年 6 月にはパナマ運河の拡張工事が完了し、輸送距離・時間の短縮による米国産原料調達コスト削減が期待されている。2017 年 1 月には、JERA が調達した米国産 LNG がパナマ運河経由で日本に初上陸した。

5. 日本の LNG 買主の対応

日本の買主は、将来長期間にわたって LNG を安定的、かつ適正な価格で調達するために、買主間アライアンスや LNG 液化プロジェクトへの参画、海外エネルギーサービス事業への進出等を加速させている。また、大手買主による売主との交渉の場等での要望により、仕向地条項緩和・柔軟化について、売主側にも浸透しつつある。また、仕向地条項のない米国産 LNG の登場や、買主間アライアンス等により、徐々に硬直的な契約条件から柔軟性のある契約へのシフトが進んでいる。

6. まとめ

2016 年には米国産 LNG の輸出が開始され、今後も米国・豪州を中心に新たに大量の LNG が市場に供給され、市場環境が大きく変わる可能性がある。また、今後数年間で、日本の買主の既存 LNG 長期契約の多くが満了し、契約更改時期を迎える。様々な条件での調達や仕向地条項撤廃による買主間での相互融通が拡大すれば、自社とアライアンス買主の持つポートフォリオや短期・スポット市場から LNG を調達する際、調達条件の最適化が進み、輸入価格の低廉化が期待できる。日本の買主は、今後数年間を従来よりも柔軟性と価格指標の多様性を持った条件での契約締結を行う好機と捉え、国内外の LNG 買主とのより一層の協力や提携を進めることが必要となる。

また、2016 年 5 月に経済産業省が発表した「LNG 市場戦略」において、日本政府は LNG の取引や価格形成の拠点を目指すこととしている。同様の取り組みは、シンガポール・中国でも進んでおり、各国との協力のためにも、日本の買主にとって政府間交渉での提言等、日本政府の支援も重要となってくる。

*一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 化石エネルギー・電力ユニット ガスグループ 研究員

**同研究主幹

〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ 10F
E-mail : hideo.sakoda@tky.ieej.or.jp